



## Lesson 9-2: 様々なフレーズ⑤

### 1. in (the) 季節 = (その) 季節に

<例> We have many festivals in the summer. <私たちは夏にたくさんのお祭りがあります>

#### 〔補足説明〕

限定された季節（去年の夏、今年の夏、など）でなくても、**the** がよく使われる。

春 = spring    夏 = summer    秋 = fall / autumn    冬 = winter

### 2. look (at ~) = (~に)目を向ける

<例> Look at that tower. <あの塔に目を向けて>

#### 〔補足説明〕

Look は「見る」とよく訳されるが「目を向ける」という意味の方が正しい。そのため、look の後に at ~ とすることで「~に目を向ける」という意味になる。

### 3. another = もうひとつの / もう一人の / 別の

<例> I need another pen. <私はもう1本別のペンが必要です>

#### 〔補足説明〕

別のものが1つの場合は、another だが、複数の場合は other (別の / 他の) が使われる。つまり“another + 単数” “other + 複数” となる（「1 つの other = an other」なので another は、1 つと覚えるとよい）。

<例> We can go to another store. (私たちは、別のお店にいけます (1 店舗を想定) )

We can go to other stores. (私たちは、別のお店にいけます (複数のお店を想定) )

### 4. Some ~. Others —. = ~のものもあれば、— のものもある

<例> Some people play soccer. Others play baseball.

<サッカーをする人たちもいる。野球をする人たちもいる>

#### 〔補足説明〕

while (一方で) という単語を間に入れて Some ~(,) while others — のように、1 文でもこの表現は使われることがある。

### 5. dress up = ~に仮装する / 正装する

<例> They dress up as monsters. <彼らは、モンスターに仮装します>

#### 〔補足説明〕

dress は名詞だと「ドレス」だが、動詞だと「(きちんとした服を) 着せる / 着る」という意味になる。

### Lesson 9-3: 疑問詞④ (What time / Which ~, A or B?)

ここでは2種類の疑問詞について学んでいきます。基本的な形は「疑問詞+疑問文?」なのですが、入る疑問詞によって意味がガラッと変わるので注意が必要です。

#### 1. What time ~? = 何時~?

<例> What time can you come here? <あなたは何時にここに来られますか>

##### 〔補足説明〕

it は「それ」という意味で使われるだけでなく、はっきりした意味を持たないが、文としての形式を整えるために用いられる場合もある。例えば「時間」「天気」「寒暖」などを表す時に使われる（この際、it は「それ」と訳さないのがポイント）。

<例> What time is it in Japan? (日本は何時ですか)

#### 2. Which ~, A or B? = A と B のどちらが、~ですか

<例> Which do you like, soccer or baseball? <サッカーと野球の、どちらがあなたは好きですか>

##### 〔補足説明〕

A or B で「A か B」という意味になる。これは、Which ~, A or B? 以外の形でも or を使うことができる。

<例> We can go home or study in our classroom.  
(私たちは家に帰るか、私たちの教室で勉強することができます)

### Lesson 9-4: 様々なフレーズ⑥

#### 1. the time = 現在の時刻

<例> Do you know the time? <あなたは現在の時刻を知っていますか>

##### 〔補足説明〕

「話してがお互い理解している時刻（その時刻）= 今の時刻」となる。

#### 2. then = それなら

<例> A: I don't have time today. B: Can you do it tomorrow then?

<A: 私には今日時間がありません。 B: それなら明日ならできますか>

##### 〔補足説明〕

基本的に then は、文章の最初（その際は Then, となることが多い）、または最後に足される。

3. **Talk to you later.** = あとで話しましょう (別れの挨拶など)

<例> A: Good bye. B: Talk to you later.

<A: さようなら。 B: あとで話しましょう>

〔補足説明〕

later は「後で」(副詞)という意味。実際にあとで話す予定がなくてもよく使われる。

4. **I have to go.** = 私は行かないといけない (会話を終わらせる直前などに使うフレーズ)

<例> Look at the time. I have to go. <時間を見て。私は、行かないといけないです>

〔補足説明〕

have to は(カタカナで書くと)「ハフトゥー」と読む(ハブトゥーではないので注意)。また、have to ~で「~しないとイケない」という意味になる。また、I の代わりに we などもよく使われる。

<例> I have to go home now. (私は今家に帰らないとイケません)

**Lesson 9-5: 前置詞④ (during / as)**

1. **during** = ~の間(ずっと) / ~の間中

<ある2点の間中、ずっとというイメージ>



<例> We eat snacks during the break. (私たちは、休み時間の間。お菓子を食べます)

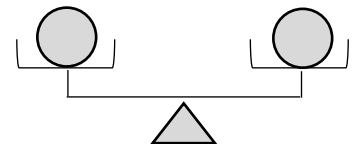
【ポイント!】

a / an / the といった冠詞が使われなかったり、複数形にしなかったりする例外の形

during ~は、during lunch break (お昼休みの最中) / during class (授業中は) のように、lunch break / class に a / an / the がつかなかったり breaks / classes と複数形にならなかったりするケースがよくあります。そういう場合は、数えることを意図していない一般的な「お昼休み中」「授業中」を指すことが多いです(同様に、at school という表現もあります。これも数えることを意図しておらず、一般的に「学校で」という意味になります)。

2. **as** = ~として <2つのもの、ことが対等な関係にあるイメージ>

<例> I work as a teacher. (私は、教員として働いています)



## Lesson 9-6: 様々なフレーズ⑦

### 1. Here is/are ~ = こちらが~です / ~があります

<例> Here is your textbook. <こちらがあなたの教科書です>

### 2. on the (mobile) phone = (携帯) 電話で

<例> We can talk on the phone. <私たちは、電話で話すことができます>

#### 〔補足説明〕

be 動詞 + on the phone で「電話中」という意味になる。また、on the phone の代わりに on the telephone となる場合もある。

<例> He is on the phone. <彼は、電話中です>

### 3. anytime / (at) any time = いつでも

<例> You can call me anytime. <あなたはいつでも私に電話することができます>

#### 〔補足説明〕

anytime / any time は、基本「副詞 (句)」となる。そのため、at などの前置詞がつかないで使われることも多い。一般的にアメリカでは、anytime と 1 語で使われ、イギリスでは (at) any time と 2 語で使われる (at anytime は使われないので注意)。

<例> You can call me at any time. <あなたはいつでも私に電話することができます>

## 【ポイント！】

### 1. sit on your seat か sit in your seat

椅子や座席に座るという場合、通常前置詞は in か on のいずれかが使われます。使い分けのポイントは「どのようにに座っているか？」となります。

sit in = 包み込まれるイメージ (腕かけがある椅子、ふかふかのソファなどに座る場合)

sit on = 座っても体が隠れないイメージ (背もたれのない椅子、ベンチなどに座る場合)

### 2. today / at the festival など副詞 (句) を文頭に持ってくる形

today / at the festival のような副詞 (句) は、文の先頭に持ってくることで、その部分を強調したり、混乱を避けたりする言い方になります。

<例> At the festival, you can buy some food. <お祭りで、いくらか食べ物を買うことができます>